



公共交通施策の課題と新交通システム導入の考え方は



志政あやせ 金江 大志

●市長の公約「免許いらずで市内どこへでも」について

●本市の交通施策として何が課題だと捉えているか。

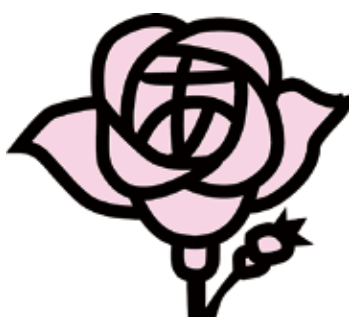
●路線バス事業者は、利用者減少などにより、既存路線の維持に苦慮している。住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、路線バス、コミュニティバス、地域の移動支援等に加え、新たな交通の仕組みづくりにより、それぞれの目的に合った移動手段が選択できるよう複合的な公共交通体系を構築することが課題と認識している。

●利用者の予約に応じて運行するデマンド交通の運行を、市境を超えて検討しては。利用者範囲や運行区間など、詳細な内容は決まっていないが、地域公共交通事業者への影響も考慮し、理解を得られるよう調整したい。

●自走式ロープウェイの次世代交通システム「ジッパ」の導入調査費の予算化を強く要望してきたが、進捗は。導入事例がないので、事業検討の熟度が上がった段階で、予算の確保に努めたい。

●ごみの新たな削減策として、スーパードライなどもある資源物拠点回収機を導入し、収集所の管理や市の財政負担の軽減などを図らないか。

●市の役割、民間活力の活用なども踏まえて、今後、調査研究を進めていく。



市の花「バラ」



地域経済の活性化に向けた地域イベントの役割とは



志政あやせ 石井 麻理

●本市の地域振興戦略における祭りの位置づけと実際の効果について

●令和6年度のABFでは、来場者に対し二次元コードを活用したアンケートを実施したが、結果と分析状況は。来場者のイベントへの満足度は、全体の92%の方が満足したという結果となり、来場者の世代間割合は、10代から40代が8割以上を占める結果となった。SNSなどの効果により、若い世代に認知が広がったことで、昨年に比べて、より参加しやすいイベントに成長してきていると受け止めている。来場者は女性が約6割を占め、地域における従来型のイベントとは異なる層に、高い関心を持つてもらえたことと捉えている。

●あやせ流健康習慣定着の取り組みについて

●「健康な食事・食環境」認証制度の推進に向けた取り組みである、スマートミール認証店舗の進捗状況は。令和6年度当初は、外食部門で2店舗が認証を取得



市公認キャラクター「ブタッコリ〜」



子どもたちの声をどのように施策へ反映させるのか



あやせ未来会議 畑井 陽子

●「子どもまんなか社会」綾瀬市の子どもの施策の取組について

●ボール遊びができる公園が少ないと感じている市民もいるが、公園のルールやマナーに関して子どもたちから訴えがあった場合に、話し合う場を設けることは可能か。

●ボール遊びができる公園のルールやマナーは、周辺住民との合意形成が最も重要なことから、現在進めている公園の再整備では、地域ごとに公園の在り方を考えている。機会を捉えて、地域の中で子どもたちの意見を聞き取ることとは可能と考えている。

●子どもたちがあやせノースタジアムを利用している状況になったと聞いたが、現状はどうなのか。

●現在は、人工芝を傷めるため金属スパイクの利用を禁止していることから、昔から施設を利用する野球団体では制限がなかった印象を受けるかもしれないが、年齢を理由とした利用制限はない。

●市民スポーツセンター陸上競技場フィールドは、中学生以下の子どもの利用はできないと聞くが、現状は。高校生以上の団体が試合で利用する場合が基本だが、スポーツ体験教室などで天然芝の良さを実感できる機会を設けている。今後、可能な範囲で、子どもたちが利用できる機会を提供していく。

●工業用地の創出について

●綾瀬スマートインターチェンジ開通後、立地を希望する企業などからの工業用地取得に関する問い合わせの状況は。また、工業用地の基盤整備に対する市の考えは。令和3年度から現在まで計71件の問い合わせがある。製造業を中心に物流や情報通信業など、市外からの進出相談は18件で、全体の約25%を占め、希望する面積は平均9000平方メートルと比較的広い用地の要望が多い状況である。また、県の産業推計では、本市の工業出荷額および流通業務用地は増加しており、新たに産業用地の確保が必要となることから、第8

●新たな工業用地の必要性和基盤整備をどう考えるか

●回線引き見直しでは、一般保留区域として位置付け、綾瀬スマートインターチェンジのアクセス性を生かし、産業フ

●工業用区画整理事業では、過去に二度頓挫しているが、経験をどのように総括し、今後に生かしていくのか。

●過去に事業が進まなかった理由として、生活環境の変化や事業に対する将来への不安などが挙げられ、これらを払拭できなかったことを残念に思い、重く受け止めている。これまでの経緯や権利者の意向を尊重し、土地活用に関する機運の醸成などを見定めて、慎重に判断していく。

●子どもたちがあやせノースタジアムを利用している状況になったと聞いたが、現状はどうなのか。

●現在は、人工芝を傷めるため金属スパイクの利用を禁止していることから、昔から施設を利用する野球団体では制限がなかった印象を受けるかもしれないが、年齢を理由とした利用制限はない。

●綾瀬スマートインターチェンジ開通後、立地を希望する企業などからの工業用地取得に関する問い合わせの状況は。また、工業用地の基盤整備に対する市の考えは。令和3年度から現在まで計71件の問い合わせがある。製造業を中心に物流や情報通信業など、市外からの進出相談は18件で、全体の約25%を占め、希望する面積は平均9000平方メートルと比較的広い用地の要望が多い状況である。また、県の産業推計では、本市の工業出荷額および流通業務用地は増加しており、新たに産業用地の確保が必要となることから、第8

●回線引き見直しでは、一般保留区域として位置付け、綾瀬スマートインターチェンジのアクセス性を生かし、産業フ



1月19日、「駅伝競走大会」が開催されました。綾瀬スポーツ公園にて。

議会用語のミニ知識

「本会議と委員会」

委員会

議会の会議には、大きく分けて本会議と委員会があります。本会議とは、議員全員で構成する会議のこと。をいい、年4回3月、6月、9月、12月に開催され、必要に応じて臨時会も開催されます。議会としての権限や能力は本会議に認められるもので、議会の議決、承認、同意などは、この本会議で行わなければならない法的な効力があります。

これに比べ委員会は、議会の内部組織として、議員の一部をもって構成する会議のことをいい、議会の運営を協議する議会運営委員会の他に綾瀬市には、3つの常任委員会と基地政策特別委員会があります。これらの委員会は、本会議での審議の予備的審査、調査機関として設置されるものです。

